

文教堂溝ノ口本店の取組

子どもからお年寄りになるまで、一生涯通っていただくために。
「学びを伝播する場」「安心して行ける」といった書店ならではの強みをいかした取組

取組の概要

- 店舗の中に場を作り、子どもからお年寄りまで、広い世代に学びの場を提供する教室事業を展開している。
- 文教堂の社員を講師として、毎月認知症サポーター養成講座を開催している。



脳げんきサロンの様子。教室は売り場の一角にあります。

解決したい課題

- 書店業界が厳しい状況にある中、書店が持つ「学びを伝播する場」としての機能をいかし、顧客と学びの接点を作りたい。
- 認知症サポーター養成講座の開催を通じて、困っている方をしかるべきところにつなげたい。

実現したい未来

- 子どもからお年寄りになるまで、一生涯文教堂に通っていただきたい。
- いろいろな形でいろいろな方を巻き込みながら、様々な場所で教室事業を展開していきたい。

INTERVIEW

1. 一生涯、学び、通える場としての書店

昨今、書店業界は全国的に閉店が相次ぎ、厳しい状況にあります。そのような中、文教堂では書店の原点である「学びを伝播する場」としての機能に立ち返り、単に本を販売するだけでなく、店舗内に場をつくることで学びの接点をつくり、「子どもからお年寄りまで一生涯通える場」を提供することを目的に教室事業を展開しています。

2. 脳げんきサロンの取組

その一つが「脳げんきサロン」です。脳トレ博士の川島隆太先生監修の下、株式会社Gakken様が開発したプログラムを週1回開催しています。教室を始めるに当たっては、シニアの方への声掛けや言葉掛けの仕方などを専門の方に教わりまして。そこで学んだことも多かったですね。

続けていく中で感じたのが、参加されている方は、プログラムを行う中で生まれる会話に一番の価値を見出しているのではないかとことです。御家族から「教室に通うようになってから、たくさん話をするようになったね。」と言われた方もいて、その話を聞き、すごく嬉しかったです。プログラムは忠実に実施しつつ、意識的に皆さんに

話を振るようにしています。

単に学ぶだけではなく、教室への参加をきっかけに外出をする、おめかしをする、会話をする。知的活動と社会参加による脳の活性化、この2軸の取組であることを目指しています。

3. 認知症サポーター養成講座

また、民間事業者として認知症サポーター養成講座を定期的に開催しています。参加される方は50歳前後の方が多いです。介護に関する専門的な話はできませんが、困っている方を適切な相談先につなげることが私たちの役目だと考えていますし、当事者だけが向き合うのではなく、全ての世代に自分事として捉えてもらうきっかけになること、そこに書店という様々な人が訪れやすい場所を実施する意義があると考えています。

4. 今後、進めていきたいこと

活動を続けることで自治体や企業の皆さんとのコネクションが広がってきました。教室事業については、いろいろな形でいろいろな方を巻き込みながら、様々な場所で展開したいと考えています。フェスみたいなこともできたらいいですね。

話し手（取材日：令和8年11月25日）

- 半澤 伸彦 さん（株式会社文教堂 運営本部教室事業部 部長）
- 太田 鉄也 さん（株式会社文教堂 運営本部教室事業部 シニアインストラクター、認知症サポーターキャパバンメイト）